



研究部だより No.10

研究主題
新しい時代で学び続ける児童生徒を育てる
令和4年11月発行 ~「生涯学習力」を高める授業づくりを通して~

10月26日に行われた、「小学部授業研究会（事前研）」の話題についてお伝えします。

全校授業研究会 小学部

小学部わかば学級 「チャレンジ! カイト」

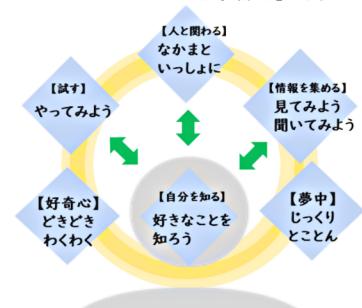
〈単元計画より、主なねらい〉

- ・好きな材料を選び、イメージに近付くように工夫しながらカイトを作る。
- ・友達の作ったカイトのいいところに気付いたり考えたりし、伝え合う。



わかばとモデル

～「生涯学習力」を高める要素～



〈授業者のしきけ〉

- ・本物のカイトや様々な種類のカイトでじっくり遊ぶ時間の設定。
- ・「作る→遊ぶ」を繰り返す単元設定。



【本物のカイトが高くあがる感覚を体験】



【いろいろなカイトを飛ばしてみる】

【児童の様子】

- ・本物のカイトで遊ぶことでカイトが「あがる」感覚を体感し、自分で作ったカイトを高くあげようとする。【好奇心】
- ・たこ糸を離さずに持ち続けて走る。【夢中】



【あげてみたカイトを作り直す】



【走ってカイトをあげようとする】



〈授業者のしきけ〉

- ・カイトをあげている姿を動画で振り返るなど、友達の姿から気付きを促す場面設定と教師の関わり。



【カイトをあげている様子を見る】

【児童の様子】

- ・友達の作り方に興味をもって、見たり質問したりする。 【好奇心・人と関わる】
- ・画像を見て、自分のカイトや友達のカイトが高くあがっていることに気付いて喜ぶ。 【好奇心・人と関わる・情報を集める】
- ・「ここがよかった」と、写真を指して具体的によかった点を友達や教師に伝える。 【好奇心・人と関わる】

研究会 協議で話題になったこと

今回の授業研究会でもjam boardというアプリを使用して進めました。参加者の思考や考えが可視化され、共有できるメリットがあり、本校の職員も使いこなせるようになってきました。



研究協力者の先生から

〈秋田大学教育文化学部准教授 鈴木徹先生〉

○授業について

- ・夢中になるためには、「～したい、～になりたい」という思いがセットである。
 - ・授業の中で児童の気持ちの温度を下げる工夫が必要ではないだろうか。
 - ・45分の授業の中で、夢中になる時間の適当な時間はどのくらいなのか考えてほしい。
 - ・友達同士で気付くことができる工夫があり、良かった。

○「生涯学習力」を高めるために

- ・誰からお薦めしてもらえること
 - ・自分の興味関心に気付くこと
 - ・じっくり味わうための質と量
 - ・実生活にどのように広げていくか、日常生活に般化していくかが大切である。



〈秋田大学大学院教授 武田篤先生〉

○授業について

- ・児童が楽しそうに活動している。
 - ・教材・教具の出し方や教室の配置が、配慮されている。

○教大協に向けて（11月実施）

- ・わかはとモデル、生涯学習について学部の説明を最初にしてほしい。
 - ・スライドを使って授業説明をしてほしい。
 - ・一つの授業を参観するだけでは「生涯学習力」にはつながらない。これまで行ってきた授業と何が違うのか、授業者の意識がどのように変わったのか、授業の見方で変化した部分はどこなのか、その変化を提示してほしい。
 - ・「小学部の力が中学部と高等部へどのようにつながるのか」というように、少し引いた視点で考えてほしい。

〈秋田県総合教育センター 主任指導主事 北島英樹先生〉

- ・児童の実態が記載されたことで、教師の願いがより伝わりやすい指導案になった。
 - ・前回の全校研究会で「個人差を活かした授業づくり」に触れた。「一人では難しいけれど誰かと一緒にできる・できた」という視点も単元計画に盛り込まれていた。
 - ・児童数（1名欠席で3名）に対して教員数（2名）が多く、児童が困らないように先回りした支援をしてしまっていたのではないか。児童同士で誘い合うなど、自然な関わりが見られるとよい。
 - ・年間を通して、様々な素材に触れる機会が設定されている。素材に触ることで「楽しい」と感じたり、モノを通して人と関わりたいと思うのではないか。素材にじっくり向き合う時間を設定してほしい。
 - ・カイトで遊ぶ時間も10分で適切であったか。じっくり遊ぶ時間があることで、関わり合いや飛ばし方の工夫など、児童の姿が変わってくるのではないか。
 - ・本時で何をねらうのかによって、準備物が変わってくる。好きな材料を選ぶことがねらいであるならば、いろいろな色や素材を選べる環境であるべき。遊びを中心にするなら、制作の時間を短くし、思い切り遊べるようにするとよい。
 - ・Eがやりたいこと、やりたくないことを自分から発信できるような手立てを検討してほしい。